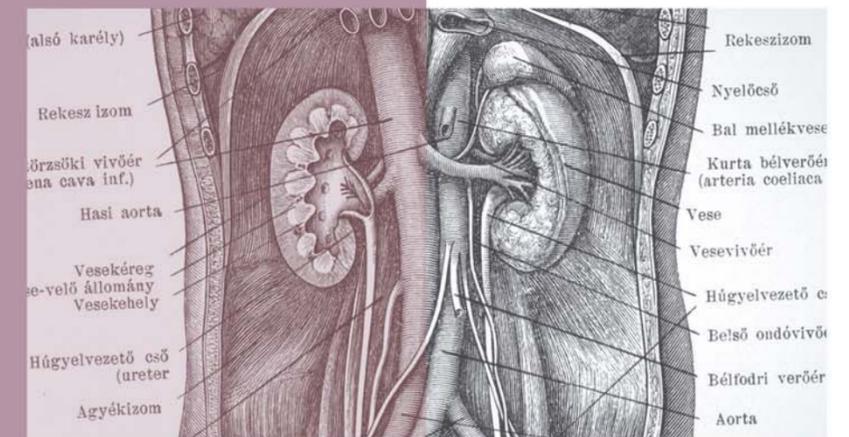


# QUARTERLY REPORT

vol.53  
Sep.2018

MANAGING OFFICE  
2-5-1, SHIKATA-CHO, KITA-KU  
OKAYAMA 700-8558 JAPAN  
PHONE:086-235-7023 FAX:086-235-7552  
<http://www.chushiganpro.jp/>



Mid-West Japan  
Cancer Professional Education Consortium

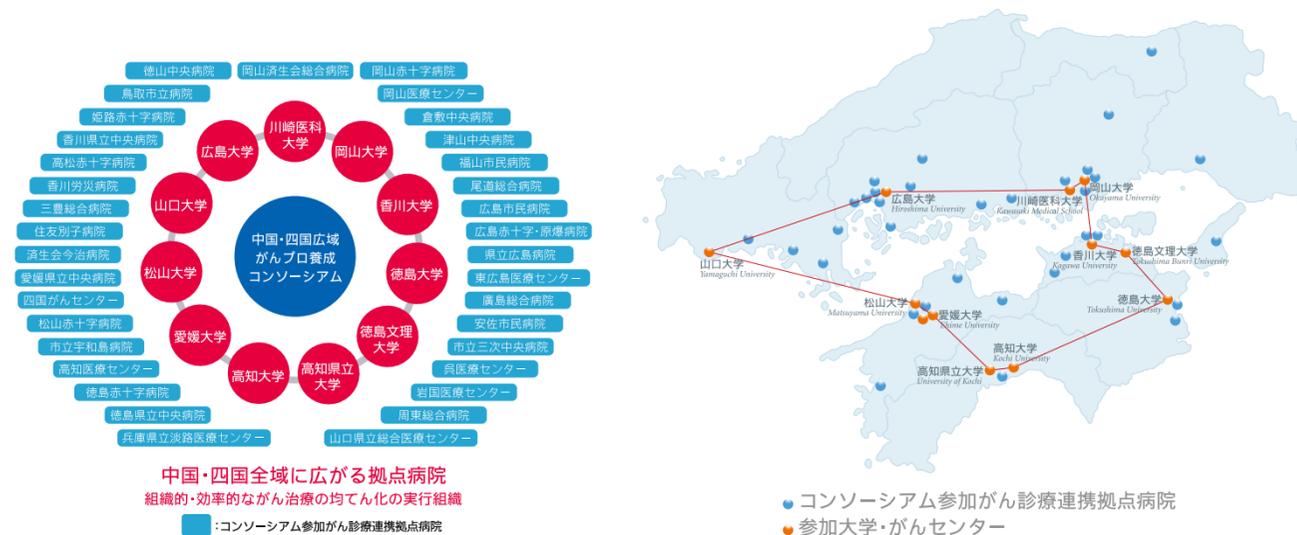
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム





## 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム

中国・四国地域に位置する11大学がコンソーシアムを形成し、各大学院に多職種のがん専門医療人養成のためのコースワークを整備し、これに地域の35のがん診療連携拠点病院が連携することにより、広い地域にムラなくがん専門医療人を送り出すことを目的としています。



## ごあいさつ

平成29年6月に、中国・四国地域の11大学が連携する「全人的医療を行う高度がん専門医療人養成」プロジェクトが文部科学省の「多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」に採択されました。

本事業は、がん医療を取り巻く状況変化に伴い生まれる多様な新ニーズにも対応するがん専門医療人の人材育成を目的としております。がん患者数の増加、治療の進歩に伴い高齢者医療、ゲノム医療、希少がん、小児／AYA世代がんへの対応は新たな重要課題となっており、中国・四国地方においても高いレベルでそれらを理解し、適切な医療を提供できる医療人の養成が必要とされています。さらに、がん患者の求める全人的医療を実践するためには、各々が高度な技術と知識を持った上で、チームとして連携し、がん診療を提供する多職種連携教育が重要となります。

本事業では中国・四国の11大学が参画するコンソーシアムを組織し、上記課題に対応できる卓越したがん専門医療人の人材育成にあたります。

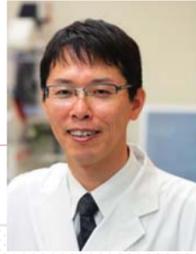
当コンソーシアム事務局では、講演会、国内外の施設への研修など、コンソーシアムの活動情報を広く発信することを目的としたクォーターリーレポートの発行を行っています。

本誌をきっかけに、大学院入学や各種セミナーへの参加等をご検討いただければ幸いです。

中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム  
事務局

## 「がん専門栄養士コースの 10年を振り返って」

徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床食管理学分野  
教授 竹谷 豊



2007年度から始まった第1期がんプロ養成プログラムより、この中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムにおいて、全国唯一のがん専門栄養士コースとして、徳島大学大学院栄養生命科学教育部に臨床腫瘍栄養学コースが開設されています。私は、当初よりがん専門栄養士コースWGを中屋豊前委員長とともに担当させていただき、第2期からはこのWGの委員長を担当させていただいております。

さて本稿では、このがん専門栄養士コースでの10年を振り返ってみたいと思いますが、そもそも徳島大学にがん専門栄養士コースが設置された背景をひもといてみたいと思います。徳島大学には、全国唯一の医学部に設置された管理栄養士養成課程である医科栄養学科とその大学院である栄養生命科学教育部があります。1962年に管理栄養士養成課程が制度化され、その養成を目的とする新しい専門学部(学科)の設置が時の厚生省に答申されたことに始まります。それまでの栄養学は、農学部や家政学部の中で教育・研究が行われており、医学部における栄養学の研究はほとんど行われていませんでした。そこで、当時の徳島大学学長の児玉桂三先生、医学部長の黒田嘉一郎先生が中心となり、「新たに作る管理栄養士養成課程は、主として人体栄養学の教育、研究を行うところとする」という構想をたて、徳島大学の医学部に管理栄養士養成課程としての栄養学科を設置することになったのでした。残念ながら現在に至るまで他の大学の医学部に栄養学科が設置されることはなく、現在も徳島大学の医科栄養学科が医学部にある唯一の管理栄養士養成課程です。その後、大学院栄養学研究科(博士前期課程、

博士後期課程)が設置され、2004年には大学院栄養生命科学教育部への改組が行われました。2002年頃からの病院における栄養サポートチーム(NST)活動の全国的な広がりとともに、本学においても臨床栄養学の教育の充実が図られてきましたが、医療における栄養学の重要性がより広く理解されるようになり、より医学を基盤とした栄養学の教育・研究が必要となってきたことから、2014年に医科栄養学科に改組されました。そのような中、2007年度にがんプロフェッショナル養成プログラムが始まるということで、中国・四国がんプロ養成プログラムで養成する専門職種の一つとしてがんについて専門の知識と技能を有した管理栄養士を徳島大学の大学院栄養生命科学教育部で養成しようということになりました。全国の他のプログラムにはないがん専門栄養士コースは、中国・四国がんプロ養成プログラムの1つのユニークな特徴となりました。NSTを代表とするチーム医療を実現するための多職種連携教育や高度ながん治療を支える栄養管理の専門教育は、このコンソーシアムならではのプログラムであり、時機を得た取り組みとなりました。

しかしながら、全国に1つしかないということは、何もない状況だということです。特に、当時は管理栄養士のためのがん専門の資格がありませんでした。適切なテキストもない状況でしたので、米国栄養士協会が作成していた「The Clinical Guide to Oncology Nutrition」を取り寄せ、分担して訳したものをメディカルレビュー社から刊行してもらいました。日本語の系統的ながん栄養学のテキストとしてはおそらく最初のものになったようです。また、当初は社会人の博士課程

の大学院生を対象に教育を行っていたので、このコンソーシアムの基幹であるe-learningと現在も続いている「がん栄養セミナー」による対面講義が座学の中心となりました。中四国がんプロの「どこでもいつでも質の高い講義を同じように受けられる」というe-learningは、社会人学生にとって大変有用なものでした。また、がん栄養セミナーは現在も毎年100名前後の受講生があり、地域においてがん栄養学を学ぶ貴重な機会を提供しています。第2期のプログラムからは、現在のような臨床腫瘍栄養学コースとして博士前期課程と博士後期課程の2段階のプログラムを構築し、博士前期課程の学生を受け入れるようになったことで、受講生も大幅に増加しました。専門資格の確立については、2013年度より日本病態栄養学会の学会認定資格としてがん病態栄養専門師制度が設けられました。その後、2014年度からは、日本病態栄養学会と日本栄養士会が認定する「がん病態栄養専門管理栄養士」の制度となり現在に至っています。今年で5年目となり、がん病態栄養専門管理栄養士も全国で400名を超える方が認定されています。本プログラム修了者は、座学の単位が免除となりますが、実務経験の年数が必要なこともあり、現時点で2名の取得にとどまっています。しかしながら、多くのプログラム修了者ががん診療連携拠点病院で管理栄養士として活躍しており、今後資格取得者が増加することが期待されるとともに、地域のがん診療における栄養管理の向上に寄与してくれることを願っています。

何もないところからスタートし、この10年に渡って続けることができたがん専門栄養士コー

スですが、徳島大学の栄養学科の歴史と重ね合わせると感慨深いものがあります。本コンソーシアムの先生方や事務職員の皆様、また授業を担当していただいた医科栄養学科の先生方には、多大なご尽力をいただき感謝いたしておりますとともに、引き続きご指導いただけますようお願い申し上げます。

# 「BRONJ・DRONJ・ARONJ・MRONJと がん治療」



高知大学医学部 歯科口腔外科学講座  
教授 山本 哲也

2003年にMarx REがビスホスホネート(BP)系薬剤による顎骨壊死36例をAvascular necrosis of the jaws: a growing epidemicとして初めて報告して以来15年が経過した。その間、BP関連顎骨壊死(Bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaws: BRONJ)の認知度は高まってきたと思われるが、BRONJ症例は増加の一途を辿っている。その理由としては様々なことが考えられるが、1つにはがん患者の増加に伴いBP製剤をはじめとした骨吸収抑制剤を使用する患者数が増加していることが考えられる。そこで、がん治療における医科歯科連携という立場からBRONJの歴史的背景ならびに問題点について考えてみたい。

本邦におけるBRONJの最初の報告は2006年に日本口腔外科学会雑誌に掲載された1例報告の症例であり、同年4月には日本口腔外科学会の調査企画委員会事業として実施された「BP投与と関連性があると考えられた顎骨骨髓炎ならびに顎骨壊死に関する調査」において30例のBRONJが確認された。その後、同学会が2006年から2008年までの期間に再調査を実施し、568例のBRONJを確認し報告している(J Oral Maxillofacial Surg 69: e364-e371, 2011)。このように、BRONJが最初の報告から短時間で急激に増加した理由としては、BRONJという概念が無く見過ごされていたためか、実際、2003年以降急激に増加してきたためなのかははっきりしないが、後者のように思われる。

その後、抗RANKL抗体製剤であるDenosumabによってもBPと同程度の頻度でONJが発症することが明らかとなりDenosumab-related ONJ

(DRONJ)とされ、BRONJとDRONJを合わせて骨吸収抑制剤関連顎骨壊死(Antiresorptive agents-related ONJ: ARONJ)と呼ばれるようにもなった。さらに、抗VEGF抗体製剤であるBevasizumab等の血管新生抑制剤によってもONJが生じることが報告され、米国を中心に薬剤関連顎骨壊死(Medication-related ONJ: MRONJ)という用語も用いられるようになってきている。

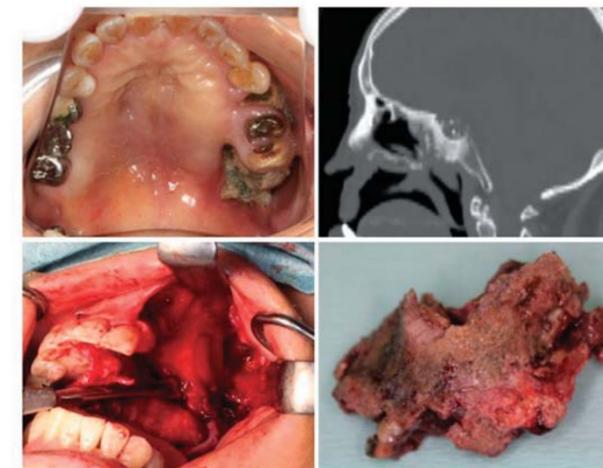
BRONJの報告を受け、2008年1月、BP系薬剤製造販売関連企業は、日本口腔外科学会監修の下、「ビスホスホネート系薬剤と顎骨壊死～理解を深めていただくために～」を発行し、2009年5月には厚生労働省が「重篤副作用疾患別対応マニュアルービスホスホネート系薬剤による顎骨壊死」を作成した。その後、本邦では日本骨代謝学会、日本骨粗鬆症学会、日本歯科放射線学会、日本歯周病学会、日本口腔外科学会および日本臨床口腔病理学会による顎骨壊死検討委員会が、米国ではアメリカ口腔顎顔面外科学会が本疾患に対するポジションペーパーを作成し、改訂版を経て、本疾患の治療指針にまで言及しているが、ガイドラインの作成にまでは至っていない。

われわれは、2006年5月に初めてBRONJを経験してからこれまでに約100例のMRONJを経験した。それらの約6割はがん患者に生じたもので、原因薬剤はゾレドロン酸とDenosumabでほとんどを占めていた。主な臨床症状は、持続性の骨露出、歯肉腫脹・排膿、歯牙の動揺・脱落等であるが、上顎骨壊死が蝶形骨にまで波及し髄膜炎を併発した症例も2例認められた(写真参照)。ONJの原因について見てみると、約半数が抜歯で、約1/4が歯周炎であり、この点がMRONJの予防を考えるう

えで非常に重要である。

2012年4月の診療報酬改定にて周術期口腔機能管理料が新たに設けられたが、これはがん患者の周術期に医科歯科が連携して包括的に口腔機能の管理を行うことにより術後の誤嚥性肺炎や創部感染といった有害事象の発生を減少させようとの取り組みである。その後、この周術期口腔機能管理料は周術期のみならず放射線治療、化学療法および緩和ケアの際にまで適応が拡大されている。しかしながら、われわれが経験したMRONJの症例の中でこの周術期口腔機能管理がしっかりと行われていたがん患者はごくわずかで、いまだにがん治療における医科歯科連携は不十分であると言わざるを得ない。

MRONJの発症機序は十分に明らかにされていないとともに、有効な予防法や治療法も確立されていない。しかし、近年、がん治療前から歯科による口腔機能管理をしっかりとすることによりMRONJの発症頻度を抑制できるという報告がなされている。したがって、がん治療に入る前に口腔内の感染病巣を可及的に除去し、がん治療中も口腔機能管理によって口腔内環境を徹底的に清潔に保つことが重要で、これにより、MRONJの発症のみならず誤嚥性肺炎といった他の合併症の発症を抑制することができるだけでなく、がん治療そのものの完遂率の向上に繋がると思われる。そのためには、今以上にしっかりとした医科歯科連携体制を構築する必要があると考えられる。



乳癌の骨転移症例に生じたゾレドロン酸によるMRONJ(炎症が蝶形骨斜台にまで波及し、髄膜炎を併発したため手術を施行)

# 平成29年度 高知県立大学がん高度実践看護師 (APN) コース

## ～Cancer Trajectory をたどる人のニーズに応える 高度実践を創造する看護師養成～

### 小児がんの子どものケア

高知県立大学では、平成29年度からがん高度実践看護師 (APN) コースを5年間開講しています。

平成29年度は「小児がんの子どものケア」をテーマに、小児がんの診断や治療に関する知識、小児がん看護に関する専門的な知識と技術を学び、小児のライフステージにあるがんをもつ子どものニーズに対応することのできる、専門性の高い看護実践力を修得することを目指したコースを開催しました。

**目的** ライフステージやがんの特性を考慮して、がんと共に生きる人とその家族の健康と生活に関わるニーズに応えられる専門性の高い実践ができる看護師の養成

**履修期間** 平成30年1/20(土)、21(日)、27(土)、28(日)、2/11(日)、12(月・祝)、17(土)、18(日)

**開催場所** 高知県立大学池キャンパス 看護学部棟C310他

**履修科目** 4単位60時間 「小児がん看護基盤論」「小児がん診断治療学」「小児がん看護実践論」「小児がん看護展開論」

**対象者** 専門看護師、大学院修士課程修了者、がん看護に関連する認定看護師

**修了要件** コースで定める60時間のうち、各科目8割以上履修すること

**受講者数** 12名のうち5名が修了

#### 【終了報告】

高知県での開催であり、かつ8日間のコースでしたが、高知県以外の香川県、岡山県、広島県からも、がん看護専門看護師、小児看護専門看護師、緩和ケア認定看護師、がんプロ学生に参加いただきました。受講生は小児がんの診断や治療に関する知識、小児がん看護に関する専門的な知識と技術の学びをもとに小児がん看護介入モデルの考案を行い、小児がんを持つ子どものニーズに対応することのできる、専門性の高い看護実践力を修得されました。また、多領域の専門・認定看護師と専門看護師を目指す学生がディスカッションをすることで、自分にはなかった視点や考え方を知ることができ、互いに刺激を受け視野をより一層広げる機会となりました。

受講生からは、「看護モデルの活用と臨床への活かし方が見えてきた」「小児がんの子どもと家族のアセスメントの視点を新たに学ぶことができ、実践に活かすことができる」「症状や状況の変化が起こった時の対応や、予測・見通しの立て方を学ぶことができた」などの声が聞かれており、今後の専門性の高い看護実践につながる、受講生のニーズに応えることのできた有意義なコースとなりました。



主催者：藤田 佐和 先生



有田 直子 先生

#### 【全体のサマリー】

##### 「小児がん看護基盤論」

有田直子先生(高知県立大学看護学部 講師)からは、小児がんを持つ子どもを理解する上での基盤となる成長・発達や諸理論についてと、それらの小児がん患者の看護への活用について具体的な事例を用いて説明されました。次に、小児がんを持つ子どもに関わる倫理的な課題と、課題を解決していくための看護師の役割について説明され、小児がん看護を実践するための基盤となる知識を再確認することができました。

塩飽仁先生(東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 小児看護学分野 教授)からは、小児がんを持つ子どもの成長・発達と、心理・社会的な課題について説明されました。小児がんを持つ子どものアセスメントでは、年齢や時期に応じた発達段階の特徴のみに着目するのではなく、発達の過程における周囲の人々の関わり方や、子ども自身の体験など、これまでの発達の過程を含めたアセスメントの視点が重要であることが説明されました。また、小児がんの治療を受けた子どもの教育・就労の問題についても説明され、高度実践看護師の役割として、学校や地域社会に対するがん教育や、がんに関する知識の普及を行う必要性を認識することができました。



塩飽 仁 先生



久川 浩章 先生

##### 「小児がん診断治療学」

久川浩章先生(高知大学医学部小児思春期医学講座 准教授)からは、小児がんの特徴や、ユーイング肉腫、横紋筋肉腫の診断や治療について、高知県の現状も踏まえて説明されました。また、小児がんの治療は成長・発達途上の子どもに行われるため、様々な晩期合併症の問題があり、治療後も長期的な健康管理が必要となることが述べられました。そのため、小児がんを持つ子どもへの看護には、治療開始前から治療後の身体面・精神面での成長発達や、教育、就労、結婚・出産などのライフイベントまでも見据えた長期的な視点が必要であることを学ぶことができました。

西内律雄先生(高知医療センター小児診療部小児科 部長)からは、急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、脳腫瘍、神経芽腫、非ホジキンリンパ腫について説明されました。治療や新規薬剤の開発を目指した臨床試験の現状について、欧米との比較も踏まえた説明がされました。また、小児がんは希少がんであり、治療による影響が成長発達にも影響するため、治療成績の向上と合併症の軽減を目指した、がんの生物学的特徴に基づいた治療の層別化が行われていることが説明されました。そして、そのための遺伝子解析を含めた迅速な病理診断は中央診断システムで行われており、時間や保険適応の問題など、解決すべき課題も多いことが述べられ、小児がんの治療についての新たな知見を得ることができました。

長尾晶子先生(広島大学病院栄養管理部 管理栄養士)からは、小児がんを持つ子どもの栄養について説明されました。治療期の栄養管理は治療の継続と成長、そして退院後の社会復帰にとっても重要であることが説明されました。また治療による食事制限も生じるため、子どもの心身に負担の少ない栄養管理と食事の工夫が必要であり、そのための病態や栄養、感染などの知識を基にした、栄養状態のアセスメント能力を身につける必要性を再認識しました。さらに、小児



西内 律雄 先生



長尾 晶子 先生

がんを持つ子どもの特性から、子どもと家族の心の支援が重要となることが述べられ、イベント食など、食事を楽しんで食べてもらえるような様々な取り組みを、多職種と協働して実施されていることが説明され、小児がんを持つ子どもの栄養管理について視野を広げることができました。

#### 【小児がん看護実践論】

有田直子先生からは、小児がんを持つ子どもの症状マネジメントと、その家族の特徴を踏まえた支援について説明されました。症状マネジメントでは、苦痛症状の一つである「痛み」を中心に述べられ、子どもが自分に合った効果的な症状マネジメントを見つけていくためのツールである、「痛みの履歴書」とその活用が説明され、子どもが主体となる症状マネジメントの意義と重要性を学ぶことができました。また、小児がんを持つ子どもの家族への支援では、家族看護エンパワメントモデルを活用した事例展開を行いながら説明され、家族への支援について学びを深めることができました。

竹之内直子先生(神奈川県立こども医療センター小児がん相談支援室 小児看護専門看護師)からは、小児がん看護における包括的なアセスメントの視点と、小児がんを持つ子どものチーム医療と多職種連携について説明されました。小児がん看護実践では、治療の経過や病期、子どもと家族の成長発達段階など、時間軸を伴う視点を持つと同時に、子どもや家族の体験を理解する視点を持つことの重要性が述べられました。また、小児がんを持つ子どもへの支援は非常に長期にわたるとともに、院内から地域社会へと関連する場や職種も幅広く、高度実践看護師には、多職種が各自の専門性を生かし、小児がんの子どもや家族に適切なタイミングで効率的に関われるようコーディネートする能力が求められることを学ぶことができました。

松岡真里先生(高知大学医学部看護学科 准教授)からは、小児がんを持つ子どもの苦痛緩和とケア、End of Lifeケアと看護における課題について説明されました。小児がんを持つ子どもの苦痛を捉えるには、子ども自身の病気や治療、入院という体験の受け止め方や感じ方を知るといった視点と、これまでと今、そしてこれから成長発達の過程にある存在として捉える2つの視点が必要であることが話されました。そして、苦痛が子どもにもたらす意味を多面的に捉え、その意味を子どもと共有する重要性が述べられ、苦痛の緩和は、子どもや家族の期待・目標に応じた方法で、子どもの「自分らしい生活」を支えていくことであることを改めて認識することができました。また、終末期にある小児がんを持つ子どもと家族は、生まれてから現在に至るまで相互作用を通じた経験を積み重ねながら過ごしており、残された時間も特別ではなく、できる限りその子らしく安楽に過ごせるよう、生活や成長発達を支えることが重要であることが述べられました。そのために、専門的な知識・技術を身につけ、出現し得る症状をアセスメントし適切に対処できる能力が求められることを再認識しました。

#### 【小児がん看護展開論】

小児がん看護展開論では、グループに分かれて以下のステップに沿って演習を行いました。ステップ1では有田直子先生より、これまでの講義の内容を踏まえて考案された小児がんを持つ子どもの看護援助モデル(原案)について説明されました。ステップ2では、看護援助モデルを活用した事例展開を行い、それぞれのグループがチームの中で小児がん看護のスペシャリストとしてどう関わるかを計画し、発表しました。ステップ3では、活用した看護援助モデルの評価を行い、ステップ4で、グループで考えたアセスメントの視点を加えた自分たちの看護援助モデルを作成しました。ステップ5では、グループで作成した看護援助モデルを活用して、新たな事例の事例展開を行いました。また、アセス



竹之内 直子 先生



松岡 真里 先生

メントの視点で重点を置いたところや、事例による特徴的なところについて検討し、発表しました。同じ看護援助モデルを用いてもグループによりアセスメントの視点で重点を置くところが異なり、意見交換することでアセスメントの視点を広げることができました。最後のステップ6では、有田先生より、全体のまとめとして、演習を通して検討した結果を踏まえ、原案である考案した看護援助モデルの評価についての説明がありました。

#### 【受講生アンケート結果】

受講生12名のうち、10名から回答をいただきました(回答率83.0%)。本コースの内容について「大変満足した」と回答された方が60%、「まあまあ満足した」と回答された方が40%でした。また、「コース内容が専門性の高い看護実践力の修得につながりましたか」という問いに対し、「十分つながった」「ある程度つながった」と回答された方がそれぞれ50%、「今回のコースの内容は今後のがん患者さんへの専門性の高い看護実践に活用できますか」という問いに対し、「大変活用できる」と回答された方が60%、「まあまあ活用できる」と回答された方が40%であることが分かり、受講者のニーズに応えることのできたコースであったと考えられました。

また、専門性の高い看護実践力の修得につながった具体的な内容については、「専門性の高い講義内容とそれをベースにした展開により、知識の強化ができた」「診断治療過程から、子どもと家族の体験を知り、モデルを使ってアセスメントを深めていくワークは、今後すぐに活用できると思う。まずはその視点を持って関わりながら、修正・追加していきたい」「分野背景が異なる人とのディスカッションにより視野が広がった」などが挙げられていました。

さらに、今後のがん患者さんへの専門性の高い看護実践に活用できると思う具体的な内容については、「様々な理論や研究成果など、看護実践の基盤となる知識」「アセスメントの視点はすぐに活用できる」「看護モデルの活用と、それを踏まえてチームでどう看護展開をしていくかの具体的な視点や方法」「看護援助モデルを活用することで、思考過程を整理しながら個性のある看護実践が考えられること」「これまでの実践の振り返りにもなり、学びを今後の実践にどう活かしていくか、またチームの一員としてどのような役割を担っていくかが新たな課題だと思う」などが挙げられていました。

これらの結果から、受講生はコースで学んだ知識や内容を今後の小児がん看護実践に活かすとともに、今後さらなる専門性の高い看護実践を行っていくための自己の課題も見出すことができおり、受講生にとって有意義なコースとなったと考えられました。

平成30年度は「高齢がん患者の治療とケア」のコースを開講予定です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

文責 高知県立大学 藤田 佐和



グループワークの様子



グループワークの様子



修了式

# 活動報告

## 岡山 第19回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:平成30年2月2日(金) 18:30~20:00  
場所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム  
参加者:9名

座長:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療を多面的な視点から考察する」  
日立製作所 ヘルスケアビジネスユニット  
X線治療システム営業本部 藪田 和利 先生

フリーディスカッション

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)や臨床現場の課題解決に向けたセミナーを企画しています。今回のセミナーでは、株式会社日立製作所ヘルスケアビジネスユニット藪田先生より、放射線治療を多面的な視点から考察すると題して、放射線治療の考え方について臨床的視点および企業の視点で解説がなされました。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見を交えて活発な議論が交わされました。



## 岡山 第20回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:平成30年2月6日(火) 18:00~19:30  
場所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室  
参加者:6名

「陽子線治療の臨床技術課題~CSIについて~」  
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

インテンシブコース及び出前講義として津山市内の関連病院や院内スタッフ等を対象に、放射線治療技術に関するセミナーを開催致しました。今回のセミナー企画は第4回目であり、陽子線治療の臨床技術課題と題してCSIについて概説しました。少人数でしたが、熱心に質疑応答をして頂きました。

## 川崎 インテンシブ生涯教育コース

川崎医科大学附属病院がんセンター 第22回 Cancer Seminar 合同講演会  
テーマ:「家族性腫瘍:がんのゲノム医療に向けて」

日時:平成30年2月3日(土) 13:30~16:00  
場所:川崎医科大学 校舎棟7階 M-702講義室  
参加者:70人

司会:川崎医科大学附属病院 遺伝診療部  
副部長 升野 光雄 先生

講演1:「Lynch症候群・家族性大腸腺腫症の診断と治療」  
川崎医科大学 臨床腫瘍学  
准教授 永坂 岳司 先生

講演2:「家族性腫瘍の遺伝カウンセリング」  
川崎医療福祉大学 医療福祉学科  
准教授 山内 泰子 先生

特別講演:「がん遺伝子パネル検査と二次的所見としての遺伝性腫瘍」  
京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻 医療倫理学・遺伝医療学分野  
教授 小杉 真司 先生

### 終了報告

がん医療関係者の生涯教育を目的として開催された。今回はテーマを「家族性腫瘍:がんのゲノム医療に向けて」とし、「Lynch症候群・家族性大腸腺腫症の診断と治療」、「家族性腫瘍の遺伝カウンセリング」、特別講演として、「がん遺伝子パネル検査と二次的所見としての遺伝性腫瘍」の講演が行われた。がん細胞の遺伝子解析結果をもとに適切な分子標的薬を選択する医療が研究として始まっており、その数パーセントに遺伝性腫瘍の原因となる生殖細胞系列の遺伝子変異が偶発的に検出され、早急に医療現場での対応が求められている等、喫緊の課題や対策、最先端のがんのゲノム医療・遺伝子レベルでの医療について説明された。

どの講演も来場者にわかりやすく、最新の情報を提供するもので、それぞれにおいて活発な質疑応答が行われたことから、来場者にとって興味深い内容だったと思われ、意義深いものだったと考える。

参加者からは、「がんのゲノム医療というテーマでの講演を聴講する機会が今まではなかったことから、多くの事を学べた。これからはもっと様々なことがわかり発展していくことがよくわかった。」「遺伝診療・遺伝カウンセリングには倫理的に深い思慮が必要であることについて、多くの事が学べた。遺伝性腫瘍の予防診療につなげられるということが検査の変化とともに発展していることが学べた。」「遺伝カウンセラーの存在を初めて知った。」「家族性疾患は高い確率で家族に遺伝していくため、発症していなくても定期的に検査をしていくことが大切なのだ」とわかり、大変勉強になった。」「ぜひ1年後の日本の現状の進歩を聞きたい。」等、多くの意見があり有意義なものだったと考える。



徳島

## Seminar on Medical Physics in Tokushima

「ヘリカル照射型直線加速機における放射線治療計画セミナー」  
Seminar of Radiation Therapy Treatment Planning for LINAC of Helical Exposure Type

日 時:平成30年2月3日(土) 10:00~17:00  
平成30年2月4日(日) 10:00~12:00

場 所:徳島大学病院 西病棟11階 日亜メディカルホール  
参加者:20名

司会:徳島大学 富永 正英

2月3日(土)  
「臨床における放射線治療計画の実際」  
原三信病院 福山 幸秀 先生

「治療装置の違いにおける線量分布及び治療成績の比較  
—フランスからの報告—」  
徳島大学大学院 芳賀 昭弘 先生

「治療計画装置を用いた実習」  
原三信病院 福山 幸秀 先生

総合討論

2月4日(日)  
「IGRTにおける画像再構成の課題と今後の展望について」  
徳島大学大学院 芳賀 昭弘 先生

総合討論

終了報告

本学で初となる放射線治療計画セミナーを2日間にわたって行った。今回は基礎の講義から始まり、実際の臨床データを用いての実習、今後の展望までを網羅した内容であり、放射線治療における効率的な治療計画の手法を理解する上で良い機会となった。放射線治療の極意は決定したターゲットに正確な放射線量を照射することである。このことを踏まえ、今回のセミナーは種々の症例を実際に治療計画することによって、治療計画装置の特徴や照射方法の理解が、より理解が深まったと思われる。これは今後の放射線治療分野の専門職を養成するうえで、有意義であると考えている。

参加者からは、「治療計画セミナーで実機を使って臨床データを実習形式で行うことは非常に有意義であった。」  
「臨床上特殊な症例についても詳細な解説があり、今後の臨床や研究において非常に有益であった。」との声があった。



徳島

臨床腫瘍外科学コース講演会  
「Meet the expert～帯電性マイクロ・ナノバブルの研究～」

日 時:平成30年2月7日(水) 17:00~18:30  
場 所:徳島大学大塚講堂2階 小ホール  
参加者:29名

「帯電性マイクロ・ナノバブルの医療応用:  
不可能が可能となる医学領域とは」  
九州大学先端医療イノベーションセンタープロジェクト部門  
特任教授 大平 猛 先生

終了報告

帯電させたマイクロバブル、ナノバブルを作成するとともに、それぞれの殺菌性、洗浄性の有効性を理論と動画を用いてわかりやすく説明し、効果を判定・証明する方法・装置を開発してエビデンスを示された。さらに今後の可能性として、感染や、癌治療の医療分野だけでなく、農業、工業、宇宙など様々な場面での有効性を示された。

参加者からは、「研究者として基本姿勢である、ゆるぎないエビデンスをしっかりと証明することが大変よく分かった。」「医工連携の重要性がよく理解できた。」「マイクロ・ナノバブルを帯電させることの意味が非常に理解できた。」「今後のがん治療研究への可能性が十分感じられた。」との声があった。



広島

## がんサポーターブケアセミナー

日 時:平成30年2月7日(水) 18:50~20:40  
場 所:ホテルサンルート広島 響の間  
参加者:87名

製品紹介:イメンドカプセル/プロイメンド点滴静注用150mg 小野薬品工業株式会社

基調講演  
座長:広島市立広島市民病院 薬剤部 薬剤主任部長 開 浩一 先生  
「ガイドラインの変更を取り入れた広島市民病院 CBDCA使用時の制吐レジメン」  
広島市立広島市民病院 薬剤部 阪田 安彦 先生

特別講演  
座長:広島大学病院 教授・薬剤部長 松尾 裕彰 先生  
「みんなで学ぼう制吐療法! ~最新のエビデンスから考える~」  
愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤主任 河添 仁 先生

確認テスト・解説

終了報告

講師には、愛媛大学医学部附属病院薬剤部薬剤主任の河添仁先生をお招きし、「みんなで学ぼう制吐療法! ~最新のエビデンスから考える~」と題して講演が行われた。講演会には、病院薬剤師や保険薬局薬剤師87名が参加した。講演では、制吐剤に関する最新の海外の診療ガイドライン・標準的治療について分かりやすく紹介された。エビデンスに基づく制吐療法について深く学習ができ、医療の質の向上に貢献できる内容であった。参加者からは、活発な質疑がなされ、有意義な研修となった。

## 広島 在宅緩和ケア事業研修会

日 時:平成30年2月10日(土) 15:00~17:00  
場 所:広島大学病院 臨床管理棟3階 大会議室  
参加者:61名

司会・進行:広島大学病院 緩和ケアチーム医師 林 優美

「暮らしの保健室立ち上げと『生と老と病と死のワークショップ』」  
川崎市立井田病院 かわさき総合ケアセンター  
腫瘍内科/緩和ケア内科 西 智弘 先生



### 終了報告

「暮らしの保健室立ち上げと『生と老と病と死のワークショップ』」と題して、川崎市立井田病院 腫瘍内科・緩和ケア内科 一般社団法人プラスケア代表の西智弘先生による講演とワークショップを行った。本講演では、早期からの緩和ケアの必要性と「緩和ケア」という言葉を使わずに「がんを抱えて生きていく」ということのサポートとして「暮らしの保健室」を運営していることの紹介があった。その後、それぞれの参加者が、「死を知るためにできることは何か?」「命とは何か?」「自分が大切にしているものはなにか?」「病や老で失っていくものは何か?」を3~4人のグループでディスカッションしながら確認していく作業を行った。参加者の中には、「2時間があったという間だった。」「自省する機会を得た。」「明日を大切に生きていこうと思った。」などの感想がみられ、知識を得るための研修会とは一味異なった成果があったと考えられる。

## 徳島 第10回 徳島がん患者のQOL向上を目指したコミュニケーション技術研修会

日 時:平成30年2月10日(土) 10:00~18:00  
平成30年2月11日(日) 9:00~15:00  
場 所:徳島大学総合研究棟2階 スキルス・ラボ  
参加者:11名

内容: 難治がん、再発、抗がん治療の中止など  
悪い知らせを患者(小児では親)に伝える  
ロール・プレイ



### 終了報告

募集定員20名で開催を計画した。例年受講者集めに苦労しており、今年度も実質8名2グループの予定で企画を進めた。事前の申し込みは3名で、1名キャンセルとなり、2名での研修となった。2名では議論が深まらないので、1日だけの参加なら可能との申し出があった研修医を加えて3名で実施した。研修医はOSCE世代で、DVDで演じている医師のコピーは上手いし患者への言葉掛けも為されるが、患者には伝わらない。しかしオブザーバーとしてのコメントは素晴らしいものがあった。A医師は患者から尋ねられると正解を答えないといけないと考え、実直に説明を繰り返し、患者をキレさせてご自分の限界を感じられていた。1日目は患者が話しているのに話を遮り被せて説明をしていたが2日目は大きく成長されて患者の話を遮ることなく聞き、沈黙も用いられた。B医師は雰囲気も良く方言を用いて患者に安心感を与える。しかしそれをご自身で意識することなく為されていた。今回の受講でSHAREの枠組みに絡めて、自らの行為を意識的に行い得て今後の成長を感じさせた。

参加者からは「リアルな患者を演じて頂き、実臨床の現場そのままでした」と高評価であった。また、今回部分受講された研修医は「是非続きを受講したかった」と非常に悔しがられていた。研修医には先輩医師の面談を観ることが自らの学びを深める良い機会になったようだった。

## 徳島文理 徳島文理大学がんプロフェッショナル養成コンソーシアム 市民公開講座

日 時:平成30年2月13日(火) 19:00~20:30  
場 所:サンポートホール高松5階 54会議室  
参加者:25名

「がん患者ロジカル・トータルサポートによる薬学的介入」  
日本医科大学多摩永山病院 薬剤部長  
がん専門薬剤師・がん指導薬剤師・緩和薬物療法認定薬剤師  
高瀬 久光 先生



### 終了報告

進行がんにおける抗がん治療と緩和ケアのタイミングは患者ごとにそれぞれ異なる。患者の心の扉を開くために、医療者は多くの言葉を持ち患者の言葉の真意を見極める能力が求められる。会話からkey wordを抽出し、先を見据えるロジカルな思考で、問題点を捉え解決方法を見出し、全身症状を把握していくことの重要性について解説された。

抗がん剤静脈投与時の血管痛(注射部位反応)の症状は医療者から見過ごされる可能性もあるが、患者が発する言葉に注意して医療者からの声掛けにより症状を捉えることが重要である。「腕が痛い、血管に沿って痛い」「腕が腫れている、あざができた」「しびれる、ジーンとする」など、Closed Questionをうまく組み合わせ多彩な表現で言葉を使い分けるスキルが求められる。症状が確定すれば、エビデンスの有る対処方法で予防又は治療が可能になる。患者さんが感じている腕の違和感を、参加者とロールプレイを行い、血管痛、静脈炎、または血管外漏出の可能性をロジカルに展開された。この取り組みは「がん患者ロジカル・トータルサポート(じほう、2017年)」へ上梓されている。最後に、緩和ケアの魔法の言葉として「スプーン1杯を目標にしませんか」のメッセージを頂いた。摂食不良の患者様は、放射線治療による口腔内炎症があり気持ちが沈みがちであった。この近い目標のクリアが次への自信へ繋がり、患者様は治療に伴う苦痛を乗り越えることができた。

講演は、参加者に質問を投げかけながら和やかな雰囲気で行った。参加者からも「問答しながら問題点を明らかにしていただいたので理解しやすかった」「副作用発見のロールプレイ実演があり、注目する問題点がわかった」などの感想が聞かれた。

## 香川 第22回 都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー

日 時:平成30年2月14日(水) 18:00~19:00  
場 所:香川大学医学部臨床講義棟2階  
参加者:21名

座長:がんセンター長 辻 晃仁

「大腸がんの個別化医療の幕開け一ひとり、ひとりのがん治療にむけて」  
関西ろうさい病院 下部消化器外科 副部長 賀川 義規 先生

### 終了報告

難しい内容を分かりやすく説明されていた。参加者からは、「医療の進歩を改めて知り、自身がその場にいる事を感じながら自らの役割を果たしたいと再認識できた。」「大変興味深く聴講した。」という声があった。

徳島

## がん高度実践看護師WG講演会 in Tokushima がん看護インテンシブコースⅡ

テーマ：がん患者のライフステージの様々なニーズに応える高度な看護実践の展開

日 時：平成30年2月16日（金） 18:00～20:00  
場 所：徳島大学 蔵本キャンパス 大塚講堂2階 小ホール  
参加者：37名

Circumstances of Oncology Nursing in the Philippines  
—Focusing on the Life Stage of Patients with Cancer—  
「フィリピンにおけるがん看護の実情  
—がん患者のライフステージに焦点をあてて—」

講師：Dr. Elizabeth Baua  
Professor of St. Paul University Philippines



### 終了報告

フィリピンにおけるがん患者の現状として、罹患率などの疫学的な情報や、現在行われているがんのマネジメントと治療内容、また、ライフステージごとのがん患者の様相とそのケアについての講演があった。特に、フィリピンではがん予防へいかに取り組むのかということが課題であり、がんと闘うためのプログラムとして、病院施設での予防を中核に据えた検診システムやがんのコントロールプログラムに関して学びを深めた。

講演終了後のアンケートでは、具体的に理解できたか、またその内容に満足したかという質問には90%以上がよくわかった・まあまあわかった、満足できた・まあまあ満足できたと回答していた。また、がん看護の知識が増えた事や興味関心が高まったという回答が多く、がん看護の専門的な学習を深める意識を高める動機づけになったと肯定的に回答したものはアンケート90%以上を占めていた。以上より、がん看護のキャリア・アップをめざす動機となる講演であったと評価できた。

今回、フィリピンにおけるがん看護について、ライフステージに焦点を当てた講演を企画したが、文化や国のがん医療に対する施策の特徴も同時に学ぶことができ、がん看護の視野を広げるうえで意味があった。言語の問題を懸念したが、講師より事前にパワーポイントと講演原稿を提供していただき、スライドに日本語訳と講演の概要を書き込んだことで、通訳による講演を中断することなく進めることができた。

松山

## 松山大学大学院医療薬学研究科 がんプロ第2回公開講座 「がん医療の実際～薬剤師力をどう発揮するか」

日 時：平成30年2月17日（土） 13:00～16:30  
場 所：松山大学薬学部9号館2階 920教室  
参加者：70名

司会・進行：松山大学薬学部 准教授 相良 英恵

「緩和ケアにおける薬剤師の役割と薬薬連携に向けた取り組み」

愛媛大学医学部附属病院 薬剤部 飛鷹 範明 先生

「がん医療と薬剤師 in 四国がんセンター」

四国がんセンター 薬剤部 小暮 友毅 先生

「がんチーム医療において薬剤師力をどう発揮するか！—その戦略と人材育成—」

大垣市民病院 薬剤部長 吉村 知哲 先生



### 終了報告

本講演会では、現場の薬剤師の先生方がどんな考えで、どのようにがん医療に向き合っているか、あるいは薬剤師力をどのように発揮したら患者さんやその家族の方に信頼され、感謝されるかを薬剤師の先生と大学教員が考える良い機会となった。関係者の皆様に感謝申し上げます。

岡山

## 第5回 岡山がん医療に携わる医師のためのコミュニケーション技術研修会

日 時：平成30年2月17日（土） 10:00～18:00  
平成30年2月18日（日） 8:00～14:30

場 所：岡山大学医歯薬融合型教育研究棟

参加者：19名

内 容：難治がん、再発、抗がん剤の中止など悪い知らせを患者に知らせるロールプレイ

### 終了報告

1名が急遽欠席し7名が受講した。1時間の座学のあと、難治がんを伝える、再発・進行を伝える、積極的抗がん治療の中止を伝えるシナリオについてロールプレイを8時間行った。2日間ともはじめからグループ内の雰囲気は良く、討論がしやすかった。ディスカッションが楽しかったとの感想があり、有意義な研修会になった。ノンバーバルスキルに関するコメントをはじめ、フィードバック内容は豊かだった。多くの受講者で、進行するにつれてねぎらいの言葉や患者に寄り添う言葉が増えていき、変化が見られた。

香川

## 第21回 都道府県がん診療連携拠点病院研修セミナー 放射線治療に関する研修会

日 時：平成30年2月19日（月） 18:00～19:20

場 所：香川大学医学部 臨床講義棟2階

参加者：61名

司会・座長：香川大学医学部附属病院 放射線治療科 教授 柴田 徹

「ホウ素中性子捕捉療法の現況と展望」

京都大学名誉教授 小野 公二 先生

### 終了報告

今回のセミナーは、専門性の高い講演だったが、分かりやすい説明で放射線治療に関する見識が広がる内容であった。参加者からは、「がん細胞における血液脳関門の破たんやアミノ酸輸送系を用いて、がん細胞を選択的に死に至らしめるということに感銘をうけた。」「症例は分かりやすかった。セミナーに参加して、中性子の事や治療について理解できた。」「放射線物理学や放射線生物学に基づいた内容であり、非常に興味深いセミナーだった。」という声があった。

岡山

## 第21回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時：平成30年2月22日（木） 18:30～20:00

場 所：岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム

参加者：6名

座長：岡山大学病院医療技術部 放射線部門 青山 英樹

「MR in Radiation Therapy」

シーメンスヘルスケア株式会社 アドバンスセラピー事業本部 放射線治療事業部 谷川 光 先生

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)や臨床現場の課題解決に向けたセミナーを企画しています。今回のセミナーでは、シーメンスヘルスケア株式会社の谷川先生より、MR分野における最新撮影技術およびその放射線治療応用の有用性について解説がなされました。MRIによる放射線治療計画の応用は近年ニーズが高まっており、病院での運用事例とその臨床意義についてわかりやすく説明して頂きました。ディスカッションでは、実際に臨床に従事している参加者から質問や意見を交えて活発な議論が交わされました。

## 山口 第8回 がん治療スキルアップセミナー

## 第13回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会

日 時:平成30年2月22日(木) 17:30~18:30  
場 所:山口大学医学部附属病院 新中央診療棟1階 多目的室1  
参加者:24名

司会:山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター  
宮内 貴子 副看護師長

## 事例検討

## 「人生最後に自宅で整理を行うことを希望された大腸がん事例」

山口大学医学部附属病院 第2外科 田中 宏典 先生  
訪問看護ステーション白鳥 正司 和江 先生

## 終了報告

この度、第13回宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会を開催し、附属病院の職員以外にも、院外の医師、訪問看護師など24名の参加があった。

事例検討では、様々な視点から活発に意見が出され、終了後のアンケートでは、「在宅の看護について分かり、支えていることが分かりました。」「訪問看護のスタッフの方々、大学の先生、教員、医師など様々なスタッフと話ができて良かった。視野が広がりました。」などの意見が寄せられ、大変有意義な検討会となった。



## 高知 第6回 インテンシブコース(在宅がん医療・緩和医療)在宅がん医療講演会

日 時:平成30年2月23日(金) 18:30~20:30  
場 所:ザクラウンパレス新阪急高知4階 フローラ  
参加者:36名

司会・挨拶:高知大学医学部医療学(公衆衛生学)講座  
宮野 伊知郎

## 「退職に関する基礎知識」

講師:独立行政法人 労働者健康安全機構  
高知産業保健総合支援センター 副所長 吉本 雄一 氏

## 「治療と職業生活の両立支援とは？」

## ～ガイドラインから支援事例まで～

講師:医療法人精華園 海辺の杜ホスピタル 健康推進室長  
高知産業保健総合支援センター 両立支援促進員  
楨本 宏子 氏

## 終了報告

本講演会では、両立支援に焦点を当ててご講演いただきました。導入として高知産業保健総合支援センター副所長の吉本雄一氏に「退職に関する基礎知識」と題して、解雇と退職の違いや退職における自己都合退職と会社からの退職勧奨の違いについてお話しいただいた後、医療法人精華園海辺の杜ホスピタル健康推進室長であり、高知産業保健総合支援センター両立支援促進員でもある楨本宏子氏を講師としてお招きし、「治療と職業生活の両立支援とは?～ガイドラインから支援事例まで～」と題して、就労支援における課題をガイドラインや実際の事例を交えてご講演いただきました。

参加者からは、「両立支援について話が聞けて、勉強になった。」「現在の自分の立場で何ができるのかを考えた。」など、それぞれの立場での学びがあったようです。



## 徳島 がん患者にも役立つ! チームで学ぶ患者のせん妄対策

日 時:平成30年2月25日(日) 13:30~15:30  
場 所:徳島大学病院外来棟5階 日垂ホールホワイト  
参加者:89名

総合司会 徳島大学病院 看護部 看護師長 尾形 美子

## 開会挨拶

徳島県がん診療連携協議会 会長 滝沢 宏光  
徳島大学病院 副病院長 看護部長 高開 登茂子

## 第1部

座長:徳島大学病院 看護部 看護師長 石田 伸子

## 1)「せん妄の病態と治療」

徳島大学病院 精神科神経科 特任助教 井下 真利

## 2)「せん妄患者への薬剤師のかかわり」

徳島大学病院 薬剤部 薬剤師 生田 賢治

## 3)「医療安全からみたせん妄管理」

徳島大学病院 看護部 看護師長 原田 路可

## 4)「せん妄患者への看護師のかかわり～事例を通して～」

徳島大学病院 看護部 副看護師長 坂木 康代

## 第2部

座長:徳島大学病院 精神科神経科 教授 大森 哲郎

## パネルディスカッション

## テーマ『チーム医療としてどのようにせん妄対策に取り組んでいくか』

パネラー:井下真利医師・原田路可看護師長・生田賢治薬剤師・坂木康代副看護師長・三木幸代看護師長

## 閉会挨拶

徳島大学病院 看護部 副看護部長 久米 博子

## 終了報告

今回のセミナーは、徳島大学病院がん診療連携センター主催、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム、徳島県がん診療連携協議会、徳島大学病院看護部の共催のもと、「チームで学ぶ患者のせん妄対策」をテーマに開催された。今回は、「せん妄の病態と治療」「せん妄患者への薬剤師のかかわり」「医療安全からみたせん妄管理」「せん妄患者への看護師のかかわり～事例を通して～」の4演題について講演があった後、『チーム医療としてどのようにせん妄対策に取り組んでいくか』についてパネルディスカッションが行われた。

愛媛

## 第5回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

## 愛媛大学医学部附属病院緩和ケアセンター研修会

日 時:平成30年3月1日(木) 17:30~18:30  
場 所:愛媛大学医学部 臨床第1講義室  
参加者:44名

司会:愛媛大学医学部附属病院 緩和ケアセンター  
専従医師 藤井 知美

「診断時からの緩和ケア ～基本的緩和ケアを中心に～」  
総合診療サポートセンター 緩和ケア認定看護師 林 博美

「オピオイド(医療用麻薬)について ～当院採用のオピオイドを中心に～」  
薬剤部 緩和薬物療法認定薬剤師 飛鷹 範明

## 終了報告

愛媛大学病院緩和ケア認定看護師 林博美氏より、「診断時からの緩和ケア～基本的緩和ケアを中心に～」、緩和薬物療法認定薬剤師 飛鷹範明氏より、「オピオイド(医療用麻薬)について～当院採用のオピオイドを中心に～」と言った内容で、平成29年度緩和ケアセンター研修会を開催しました。  
参加者アンケートによると、「人生の最終段階におけるケアを詳しく知りたい」「がんや心不全以外の疾患に対する緩和ケアについても教えて欲しい」「とても勉強になった。受講して良かった」等の感想があり、高評価でした。また、当院で行われている緩和ケアについて、半数以上が「改善すべき点がある」と答えており、当研修会は院内の現状について再考するきっかけになると考えられました。



広島

## がん医療従事者研修会

日 時:平成30年3月2日(金) 18:30～  
場 所:広島大学病院 臨床管理3階 大会議室  
参加者:67名

座長:広島大学病院 がん化学療法科 教授 杉山 一彦 先生

「積極的がん治療の中止を伝える～その心と術～」  
福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー 准教授  
白河厚生総合病院 総合診療科 部長 東 光久 先生

## 終了報告

福島県立医科大学白河総合診療アカデミー准教授 東光久先生によるがん医療従事者研修会は、2015年度「主治医力で語る総合診療医の緩和ケア」、2016年度「Best Supportive Care再考～あなたはBSCの本当の意味を考えたことありますか～」に引き続き、今回の講演「積極的がん治療の中止を伝える～その心と術～」で3回目となる。東先生の講義では毎回、参加者同士のディスカッションが組み込まれており、講演の中で提示される具体的な症例等を題材として、参加者自身で「考える」機会が豊富に盛り込まれた内容となっている。  
参加者からは「日頃の患者、医師、同僚などに対するコミュニケーションについて再考し、自分の役割について学び考える良い機会となった」「終末期抗がん剤治療をどうするかを考えるきっかけとなった」などの感想があり、今回も大変有意義な研修会となった。

広島

## 「女性の健康週間」市民公開講座

テーマ:女性の健康週間に学ぶ～女性が知っておきたい女性特有の病気とがんの知識～

日 時:平成30年3月3日(土) 14:00～16:00  
場 所:広島駅南口地下広場  
参加者:200名

司会:タレント/リポーター 寺沢 知佳子 さん

開会挨拶:産婦人科専門医/臨床遺伝専門医 兵頭 麻希 先生

講演1:「女性が知っておきたい婦人科の病気と更年期のお話」  
産婦人科専門医 小出 千絵 先生

ミニセミナー:「女性の健康を考えた『エクオール』と『ソイチェック』」

講演2:「女性が知っておきたい婦人科がんのお話」  
産婦人科専門医/婦人科腫瘍専門医 古宇 家正 先生

講演3:「女性が知っておきたい乳がんのお話」  
乳腺専門医/がん薬物療法専門医 笹田 伸介 先生

ソイチェック結果報告

閉会挨拶:産婦人科専門医/臨床遺伝専門医 兵頭 麻希 先生

## 終了報告

日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会は、産婦人科医が女性の健康を生涯にわたって総合的に支援することを目指し、3月3日ひな祭りを中心に、3月8日国際女性の日までの8日間を「女性の健康週間」と定め、2005年にその活動を開始しました。2008年からは、厚生労働省も主唱する国民運動として、女性が生涯を通じて健康で明るく、充実した日々を自立して過ごすことを総合的に支援するため、国や地方公共団体、関連団体が一体となり、さまざまな活動を展開しています。平成29年度の学会テーマは「女性の健康週間に学ぶ～意外に知らないカラダのこと～」とし、広島県として「女性の健康週間に学ぶ～女性が知っておきたい女性特有の病気とがんの知識～」をテーマに公開講座を開催しました。



香川

## がん医療フォーラム香川2018

### がんになっても幸せに暮らそう～ちゃんと決めまい自分のこと～

日 時:平成30年3月3日(土) 13:00～16:00  
場 所:かがわ国際会議場  
参加者:239名

総司会・進行:香川大学医学部附属病院  
緩和ケアセンター副センター長 中條 浩介  
開会挨拶:香川県医師会会長 久米川 啓

<第1部:基調講演>  
「がん患者さんが住み慣れた場所で過ごすために」

「がんになっても安心して暮らせる情報づくりと地域づくり」  
帝京大学医学部内科学講座腫瘍内科 准教授 渡邊 清高

「がんに人生を台無しにされないための大事なお話  
—Advance Care Planning—」  
香川大学医学部臨床腫瘍学講座 教授 辻 晃仁

<第2部:フォーラム>  
「がんになっても幸せに暮らすための準備」  
モデレーター:渡邊 清高・辻 晃仁  
シンポジスト:吉澤 潔・三宅 敬二郎・長内 秀美

「乳がん患者におけるACPの実践」  
久米川病院 院長 吉澤 潔

「家に居る、地域で暮らすという選択」  
在宅診療敬二郎クリニック 院長 三宅 敬二郎

「いつもの風景のなかで終えていくために～納得した意志決定をするとき～」  
香川県看護協会高松訪問看護ステーション 所長 長内 秀美

ディスカッション・まとめ

閉会挨拶:香川大学医学部附属病院 院長 横見瀬 裕保

#### 終了報告

がんになってもその人らしい生活を維持しながら、自宅や施設など住み慣れた場所で安心して暮らせる社会の構築を目指し、中国・四国地域の医療・介護・福祉関係者のみならず、香川県内の一般県民にもご参加いただき、「がんになっても安心して家で暮らすことができる仕組みづくり」の実現に向けて、がん医療を受けながら在宅療養していくために患者さんとご家族に必要な医療・福祉に関する情報や自律的な意思決定のあり方について考えた。定員250名のところ239名の参加があり、満員盛況で成功裏にフォーラムが終了できた。第1部の開始時から、参加者の皆様から講師に対する質問カードを回収して、第2部のディスカッションの中で、シンポジストとモデレーターで質問に基づく議論を行う全員参加型のフォーラムは、最後まで全員が前のめりで聞き入る充実した内容だった。参加者からは、今回のフォーラムをきっかけに、病院、かかりつけ医、在宅看護師、地域のサポーターが連携して、困ったときに相談しやすい環境整備がされる社会を望むという声が多く聞かれた。また、ACPIに対する認識が、患者個人だけのものではなく、家族やサポートする周囲の人々を含めたものである必要を感じたという意見もあった。



川崎

## インテンシブ生涯教育コース

川崎医科大学附属病院がんセンター 第16回 Oncology Seminar 合同講演会  
テーマ:抗がん剤による皮膚障害と上手につきあうために

日 時:平成30年3月3日(土) 13:30～16:00  
場 所:川崎医科大学校舎棟7階 M-702教室  
参加者:91名

座長:川崎医科大学附属病院 薬剤部 薬剤部長 二宮 洋子  
川崎医科大学附属病院 栄養部 栄養部長 遠藤 陽子  
講演1:「薬剤師の立場から(乳腺甲状腺外科領域)」  
川崎医科大学附属病院薬剤部 薬剤師 森田 早貴  
講演2:「薬剤師の立場から(消化器外科領域)」  
川崎医科大学附属病院薬剤部 薬剤師 村越 由佳  
講演3:「看護師の立場から(消化器外科領域)」  
川崎医科大学附属病院看護部 看護副主任 矢野 昭子  
講演4:「抗がん剤による皮膚障害について」  
川崎医科大学 皮膚科学 講師  
川崎医科大学附属病院 皮膚科 医長 田中 了



#### 終了報告

がん医療関係者の生涯教育を目的として開催された。今回は、テーマを「抗がん剤による皮膚障害と上手につきあうために」とし、「薬剤師の立場から(乳腺甲状腺外科領域)」、「薬剤師の立場から(消化器外科領域)」、「看護師の立場から(消化器外科領域)」、「抗がん剤による皮膚障害について」として、抗がん剤による副作用の一つである皮膚障害について、具体的に説明した。講演1・2では、薬剤師から、乳腺外科領域・消化器外科領域の各領域で使用される皮膚障害がおりやすいとされる抗がん剤が示され、実際に行っている服薬指導や対応について、説明をおこなった。講演3では、看護師から、抗がん剤による皮膚障害を発症した患者さんの予防的スキンケア等について説明を行った。講演4では、抗がん剤特異的な皮膚障害について、副作用の出ている写真の実例を示し、皮膚障害の予防や、症状がでた後の対応などについて説明を行った。どの講演も来場者にわかりやすく、身近な副作用である皮膚障害の情報を提供するもので、それぞれにおいて活発な質疑応答が行われたことから、来場者にとって興味深い内容だったと思われる、意義深いものだったと考える。

参加者からは、「皮膚障害は、身近な副作用で興味深く聴講した。」「抗がん剤の副作用の皮膚障害によって死亡する例もあることは知らなかったので、勉強になった。」「血液データなどの検査結果ばかりを注視するのではなく、皮膚障害(皮膚観察、爪観察)の重要性を学べましたので、その点についてもおそろにすることのないように、再確認できた。」「実際に患者さんにおこっている症状、使用している薬剤であり、とても興味深く、勉強になった。」「写真や実際の患者さんの例をあげて頂き、すごくイメージがもてた。」など、多くの意見があり、とても有意義なものであったと考える。

高知

## 市民公開講座「がん患者、家族の立場から伝えたいこと『Thank you and...』」

日 時:平成30年3月4日(日) 14:00～16:00  
場 所:高知会館3階 飛鳥の間  
参加者:38名

#### 終了報告

「がん患者、家族の立場から伝えたいこと『Thank you and...』」と題して、市民公開講座を開催しました。現在では、がんは日本人の死因の第1位であり、生涯のうちがんにかかる可能性は、男性では2人に1人、女性では3人に1人と推測されています。がんは他人ごとではなく、誰にでも起こる可能性の高いとても身近なものになっています。今回、がんを体験された方(がんサバイバー)と、がん患者さんを支えられたご家族の方から、がん患者になった当時の思いや支える家族としての思いなどをお話していただき、在宅療養についての知識を深めていただくとともに、「今を生きるヒント」や死生観を育むきっかけとなればと思ひ企画しました。参加者からは、「感謝の気持ちは伝えないと伝わらない。家族への感謝の思いを日頃から伝えようと思います」「(がんや療養を支える)体験をされた方のお話は、大変勉強になりました。」など、有意義な時間であったと好評でした。

## 川崎 インテンシブ生涯教育コース講演会

日 時:平成30年3月7日(水) 18:00~19:00  
場 所:ホテルグランヴィア岡山3階 パールの間  
参加者:62名

座長:川崎医科大学 乳腺甲状腺外科  
教授 紅林 淳一 先生  
司会:川崎医科大学附属病院 看護部  
平松 貴子 看護部長

「AYA世代のがん医療の課題と対策」  
独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター  
臨床研究センター長 堀部 敬三 先生

### 終了報告

がん医療関係者の生涯教育を目的として開催された。今回は「AYA世代のがん医療の課題と対策」の講演が行われた。演者である堀部先生は、今期のがんプロでコース設定されているAYA世代がんについて、厚生労働省に「AYA世代のがん対策に関する政策提言」を出された厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業「総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究」班の研究代表者を務められており、喫緊の課題と対応について、広範囲な内容の講演が行われた。講演内容は来場者に分かりやすく、最新の情報を提供するものであった。また、活発な質疑応答が行われたことから、来場者にとって興味深い内容だったと思われる、意義深いものだったと考える。

参加者からは、「AYA世代の治療の問題等すべて網羅的に聴くことができた。」「患者さんのライフステージに合わせた支援が必要で、学校生活への支援なども視野に入れることが必要なんだと思った。」「AYA世代のがん治療が他世代と比べて、予後の改善が低いという話は、知らなかった。」「いままでケアしなければいけないと思っていたが知識がなかった。今回の講演を聞いて、少しでも何かできることをしていきたい。」等の意見が多くあり、有意義なものだったと考える。



## 山口 山口大学がんプロCNS事例検討会

日 時:平成30年3月9日(金) 17:00~19:00  
場 所:山口大学医学部保健学科第2研究棟3階 HD1-1教室  
参加者:11名

司会:山口大学大学院医学系研究科  
保健学専攻 教授 齊田 菜穂子 先生

「がん看護専門看護師の実践する活動記録～事例を通して～」  
講師:がん看護専門看護師 岩月 まり子 先生

### 終了報告

この度、山口大学がんプロCNS事例検討会を開催し、がん看護専門看護師の岩月まり子先生をお招きして、がん看護CNS合格のためのレポートの書き方や二次試験の問題の読み取り方についてご指導いただいた。検討会では活発な質疑応答があり、大変盛会であった。



## 岡山 第1回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)FDセミナー

日 時:平成30年3月10日(土) 13:00~17:30  
場 所:岡山大学病院 総合診療棟5F 第4カンファレンスルーム  
参加者:14名

総合司会:岡山大学大学院 笈田 将皇、岡山大学病院 青山 英樹

「文部科学省 平成29年度 多様な新ニーズに対応する『がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)』養成プランの概要」

「過去の実績について」

シンポジウム:「高齢者医療、ゲノム医療、希少がん、小児/AYA世代がんに向けた放射線治療について」

### 1. 中国四国地区各県の動向について

演者:川崎医科大学附属病院 長瀬 尚巳 先生  
倉敷中央病院 近藤 和人 先生  
広島大学病院 中島 健雄 先生  
山口大学病院 田辺 悦章 先生  
鳥取大学医学部附属病院 小野 康之 先生  
島根大学医学部附属病院 西村 友則 先生  
徳島大学病院 佐々木 幹治 先生  
愛媛大学医学部附属病院 本田 弘文 先生  
香川大学医学部附属病院 續木 将人 先生  
高知大学医学部附属病院 佐々木 俊一 先生

### 2. 総合討論

特別講演1:「BNCT(硼素中性子捕捉療法)の物理工学的基礎」

京都大学原子炉実験所 櫻井 良憲 先生

特別講演2:「粒子線治療の臨床応用技術に関する現状と課題」

南東北がん陽子線治療センター 加藤 貴弘 先生

### 終了報告

本セミナーでは、中国四国地区大学病院、倉敷中央病院、県内外の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、がんプロ活動の総括と地域連携に向けての討論会および講演会を企画しました。シンポジウムでは、今期がんプロ活動の重要課題とされる高齢者医療、ゲノム医療、希少がん、小児/AYA世代がんに向けた放射線治療と題して、各地域の放射線治療の症例内訳を報告して頂き、地域間、大学間での今後の放射線治療体制整備および人材育成の解決に向けて積極的に議論を交わしました。また特別講演では、希少がん、小児/AYA世代を対象とする粒子線治療に関して、京都大学原子炉実験所の櫻井先生からはBNCT(硼素中性子捕捉療法)について、南東北がん陽子線治療センターの加藤先生からは粒子線治療についてご講演頂き、多角的に議論を交わしました。短い時間でしたが、非常に有意義な議論が展開され、盛況裡に終わりました。



徳島

## 市民公開講座「遺伝子診断(がんパネル)により選ぶ新しいがん治療」

日 時:平成30年3月11日(日) 14:00~16:30  
場 所:徳島大学蔵本キャンパス内 長井記念ホール  
参加者:268名

開会挨拶:徳島大学医学部長 丹黒 章 氏

【第一部】講演1:「**がんと遺伝子**」 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 人類遺伝学分野 教授 井本 逸勢 氏  
講演2:「**有効な薬を求めて**」 徳島大学大学院 医歯薬学研究部 消化器内科学分野 教授 高山 哲治 氏  
講演3:「**遺伝子診断外来**」 徳島大学病院 がん診療連携センター 特任助教 藤野 泰輝 氏  
【第二部】講演4:「**治療の実際(肺癌、乳癌)**」 徳島大学病院 がん診療連携センター長 滝沢 宏光 氏  
講演5:「**行政の立場から**」 徳島県保健福祉部 次長 鎌村 好孝 氏

閉会挨拶:徳島大学大学院 医歯薬学研究部 消化器内科学分野 教授 高山 哲治 氏

## 終了報告

今回の市民公開講座は「遺伝子診断(がんパネル)により選ぶ新しいがん治療」というテーマで、徳島大学蔵本キャンパス内の長井記念ホールで講演を行った。県民購読率90%の徳島新聞社と共催した市民公開講座であったため、通常の講座よりもはるかに大きな広告効果があり、268名もの多くの市民にご参加いただいた。講演会前の新聞記事、パンフレットにより、参加者はがんの予防についてより深い知識が得られたと思う。会場の都合により参加者数が限られており、当日出席できなかった人にも新聞紙上で内容を周知するため、がんの知識だけでなく大学における教育、研究活動についてより多くの人に深く理解してもらうことができたと思われる。今後も継続してこのような公開講座を開催したい。

参加者からは、「遺伝子診断については、ほとんど知らなかったが、初めて説明を聞き参加して良かったと思った。」「遺伝子治療の現況がよくわかりました。」「新しい治療法を知る機会は少ないのでこのような市民公開講座をどんどん開催してほしい。」などの感想が聞かれた。

徳島

## 徳島がんゲノム医療講演会

日 時:平成30年3月16日(金) 18:00~19:40  
場 所:徳島大学病院外来診療棟5階 日垂ホールホワイト  
参加者:42名

開会の辞:徳島大学医学部長 丹黒 章 先生

特別講演Ⅰ:「**がんのゲノム医療の経験**」  
司会:徳島大学病院 がん診療連携センター長 滝沢 宏光 先生  
講師:岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 呼吸器・乳腺内分泌外科 教授 豊岡 伸一 先生

特別講演Ⅱ:「**がんゲノム医療の可能性と課題～遺伝医療の立場から～**」  
司会:徳島大学大学院 医歯薬学研究部 消化器内科学分野 教授 高山 哲治 先生  
講師:札幌医科大学 医学部医学科 遺伝医学 教授 櫻井 晃洋 先生

閉会の辞:徳島大学大学院 医歯薬学研究部 地域・消化器総合内科学 教授 佐藤 康史 先生

## 終了報告

最初の講演では、岡山大学呼吸器・乳腺内分泌外科の豊岡先生にがんのゲノム医療について、岡山大学での経験を中心にわかりやすくご講演いただいた。次の講演では、札幌医科大学遺伝医学の櫻井先生に遺伝学の立場から、ゲノム医療時代の遺伝性疾患に対する対応についてご講演いただいた。いずれも、大変わかりやすい内容であり活発な討論が行われ、大変有意義な会であった。参加者は大学院生に加え、がん治療に関わる医師、看護師、事務職員、医療ソーシャルワーカー、など多くの職種の人が参加し、大変意義深い講演会となった。



愛媛

## 第6回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

## 遺伝子医療の現状を考える市民公開講座—遺伝子の変化によって起こるがんを理解しよう—

日 時:平成30年3月17日(土) 13:00~15:30  
場 所:松山市医師会館3階 いきいきホール  
参加者:35名

開会挨拶:愛媛大学大学院医学系研究科 臨床腫瘍学講座 教授 薬師神 芳洋

講演1:「**がんと遺伝子～愛媛県のがん診療連携センターと愛媛大学医学部附属病院での取り組み～**」  
演者:愛媛大学大学院医学系研究科 小児科学 准教授 江口 真理子

講演2:「**ひとり一人の遺伝子がわかる時代のがん治療～遺伝性腫瘍って知ってますか?～**」  
演者:近畿大学大学院総合理工学研究科 遺伝医学 教授 田村 和朗

閉会挨拶:愛媛大学大学院医学系研究科 小児科学 准教授 江口 真理子

## 終了報告

近畿大学大学院総合理工学研究科 遺伝医学教授の田村和朗先生をお迎えし、遺伝子医療の現状を考える市民公開講座を開催しました。本年から国内のプロジェクトとして、がんゲノム医療中核病院・拠点病院が認定され、患者さんご自身のゲノム解析を元に個別化医療 (precision medicine) が開始されます。現在愛媛大学病院でも、このがんゲノム医療中核病院を目指し調整中ですが、今回の公開講座はこの先駆けとなる講演会となりました。前半の第一部では、こういったゲノム医療の解説や愛媛県の現状を江口先生にご解析頂きました。後半の第二部では、このゲノム医療に切っ掛けは切れない職種である、遺伝子カウンセラーの養成に長年携わってこられた田村先生から、日本国内における遺伝子医療の現状と方向性をご解説頂きました。会場からは熱心な質問もとびだし、一般人の方々の興味の高さが感じられる市民公開講座となりました。

徳島

## PHITS講習会

日 時:平成30年3月17日(土) 9:30~18:00  
平成30年3月18日(日) 9:30~15:00  
場 所:徳島大学蔵本キャンパス 医学部基礎B棟1階 基礎第一講義室  
参加者:13名

講師:日本原子力研究開発機構 古田 琢哉 先生

## 講習会プログラム

3月17日(土)	3月18日(日)
■PHITSのインストール	■基礎実習3-2(物理モデルの設定)
■PHITSの概要説明	■総合実習(α線、β線、γ線、中性子線を止めるには?)
■基礎実習1-1(体系の作成方法)	■医療応用実習(診断X線での後方錯乱の影響の解析)
■基礎実習1-2(線源の設定方法)	■まとめと質疑応答
■基礎実習2(タリーの設定方法)	
■基礎実習3-1(輸送計算に関する設定)	

## 終了報告

本学でPHITSを用いた初級編のモンテカルロシミュレーションの講義と実習を行った。本講習会では基礎物理をベースにシミュレーションの体系づくりを重点的に行った。また、今回は日常の医療にフィードバックできる医療応用実習を組み込み、大変有意義であった。

参加者からも、「理解しにくい物理現象をシミュレーションを行うことによって、放射線の挙動に対する理解を深めることができた。今後も機会があれば、中級編を徳島大学で引き続き行っていただきたい。」と感想が聞かれた。



徳島

## 臨床腫瘍・緩和地域医療学コース(インテンシブ)第2回地域医療セミナー

テーマ:美馬市及び県西地域とのがん診療連携～患者さんの安心のために～

日時:平成30年3月22日(木) 19:00～21:00  
 場所:油屋 美馬館 つるぎの間  
 参加者:39名

総合司会:徳島大学病院 がん診療連携センター  
 センター長 滝沢 宏光

開会挨拶:徳島大学病院 がん診療連携センター  
 がん診療連携・相談部門長 金山 博臣  
 一般社団法人 美馬市医師会 会長 谷口 博美

ご挨拶:「徳島大学病院 がん診療連携センターについて」  
 徳島大学病院 がん診療連携センター  
 センター長 滝沢 宏光

第1部

座長:徳島大学病院 がん診療連携センター  
 がん診療連携・相談副部門長 鳥羽 博明

「がん遺伝子診断外来について」

徳島大学病院 消化器内科 特任助教 藤野 泰輝

「胃癌に対する最新の低侵襲外科治療」

徳島大学病院 消化器・移植外科 講師 吉川 幸造

「がん治療におけるロボット支援手術の現状と展望」

徳島大学病院 泌尿器科 教授 金山 博臣

第2部

座長:一般社団法人 美馬市医師会 会長 谷口 博美

「緩和に関する地域連携カンファレンス報告」

徳島大学病院 緩和ケアセンターGM 看護師長 三木 幸代

「徳島大学病院におけるがんリハビリテーションの現状と地域連携のポイント」

徳島大学病院 リハビリテーション部 理学療法士 近藤 心

閉会挨拶:一般社団法人 阿波市医師会 会長 笠井 謙二

終了報告

今回のセミナーは、徳島大学病院がん診療連携センター主催、中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム、美馬市医師会、三好市医師会、阿波市医師会、吉野川市医師会の共催のもと、徳島大学病院と美馬市及び県西地域のがん診療連携をさらに発展させるために開催された。今回は、「がん遺伝子診断外来について」「胃癌に対する最新の低侵襲外科治療」「がん治療におけるロボット支援手術の現状と展望」「緩和に関する地域連携カンファレンス報告」「徳島大学病院におけるがんリハビリテーションの現状と地域連携のポイント」の5演題について講演があり、各種がんの診療連携が深められた。



愛媛

## 第7回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

自己免疫疾患関連副作用(irAE) マネジメント勉強会  
テーマ:間質性肺疾患(ILD)

日時:平成30年3月28日(水) 18:00～19:10  
 場所:愛媛大学医学部 臨床第2講義室  
 参加者:20名

「前回の勉強会の振り返り(1型糖尿病)」

愛媛大学医学部附属病院 腫瘍センター 朝井 洋晶 先生

総合司会:愛媛大学医学部附属病院 腫瘍センター

朝井 洋晶 先生

「PD-1抗体使用中に経験した間質性肺炎」

愛媛大学大学院医学系研究科 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学 三好 誠吾 先生

「薬剤性肺障害の診断と治療について」

愛媛大学医学部附属病院 呼吸器センター 濱口 直彦 先生

質疑応答

終了報告

非小細胞肺癌、悪性黒色腫、腎細胞癌、古典的ホジキンリンパ腫、頭頸部癌など様々ながん腫で免疫チェックポイント阻害剤の有効性が示されています。一方で、今までの殺細胞性抗がん剤では見られなかった自己免疫疾患様の有害事象が起こります。当院でも、免疫チェックポイント阻害剤投与中に間質性肺炎を発症した肺がん患者の経過を呼吸器内科 三好医師より報告いただき、経験を共有しました。その後、分子標的薬を含む抗がん剤による薬剤性間質性肺炎、さらには免疫チェックポイント阻害剤による自己免疫疾患関連有害事象の一つである間質性肺炎について診察、診断に必要な検査、初期対応、さらには発症リスクに関する研究を含む最新の知見について当院の呼吸器内科専門医である濱口医師にご講演いただきました。

今回のセミナーは、全体にわたって活発な質疑応答がされ知識を深めることに十分役立ったと考えられます。前半の症例提示においては、息切れ、酸素飽和度の低下などから疑うことが重要であること、疑う場合には感染症の鑑別と同時にステロイドを含む治療を考慮すること、を情報共有しました。後半の教育講演では、免疫チェックポイント阻害剤投与前の高分解能CTを含む検査による間質影の存在スクリーニング、疑わしい場合には治療前から呼吸器内科へのコンサルトすることが望ましいこと、治療中・治療後に本病態が疑われれば高分解能CT、血液ガス分析などにより重症度評価を行い、ステロイドを含む治療を検討すること、さらには気管支鏡検査の適応についても呼吸器内科に積極的にコンサルトすること、を情報共有しました。今後とも、他の有害事象について継続的な勉強会を開催する予定です。



岡山

## 第22回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:平成30年3月29日(木) 18:00～19:30  
 場所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室  
 参加者:6名

「IMRT治療計画における最適化について」

岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇  
フリーディスカッション

終了報告

インテンシブコース及び出前講義として津山市内の関連病院や院内スタッフ等を対象に、放射線治療技術に関するセミナーを開催致しました。今回のセミナー企画は第5回目であり、IMRT治療計画における最適化についてと題して、X線治療のIMRT最適化治療計画技術について概説しました。少人数でしたが、熱心に質疑応答をして頂きました。



## 岡山 第1回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:平成30年4月12日(木) 16:30~18:00  
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム  
参加者:5名

司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇  
「放射線治療品質管理基礎技術1(物性)」 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画しています。今回のセミナーではChapter1を中心に、原子の構成と特徴、原子核の状態、量子力学の基礎などについて解説がなされました。大学院相当の内容にもかかわらず、社会人の参加者も含めて熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

## 岡山 第2回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:平成30年4月19日(木) 16:30~18:00  
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム  
参加者:5名

講演  
司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇  
「放射線治療品質管理基礎技術2(原子核物理)」 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画しています。今回のセミナーではChapter2を中心に、放射能と壊変、放射平衡、核反応、放射化、核分裂などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

## 岡山 第3回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:平成30年4月20日(金) 18:00~19:30  
場 所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室  
参加者:8名

「IMPT照射精度に関する技術的課題」 岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

インテンシブコース及び出前講義として津山市内の関連病院や院内スタッフ等を対象に、放射線治療技術に関するセミナーを開催致しました。今回のセミナー企画は今年度に入って第1回目であり、IMPT照射精度に関する技術的課題と題して、陽子線治療の強度変調技術の課題について概説しました。少人数でしたが、熱心に質疑応答をして頂きました。

## 山口 第1回 がん治療スキルアップセミナー

### 第14回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会

日 時:平成30年4月23日(月) 17:30~18:30  
場 所:山口大学医学部附属病院 新中央診療棟1階 多目的室1  
参加者:93名

事例検討  
「治療中止を決断し緩和ケア病棟へ転院された胃がん事例」  
山口大学医学部附属病院 第二外科 西山 光郎 先生  
山口赤十字病院 緩和ケア科 上田 宏隆 先生



### 終了報告

この度、第14回宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会を開催した。この事例検討会は、切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築と連携強化を図ることを目的として開催している。附属病院の職員以外にも、院外からも参加があり、参加者数は93名であった。各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行った。グループ討議では、様々な視点から活発に意見が出され、大変盛会であった。終了後のアンケートでは、「アドバンスケアプランニングを話すことはとても大切だけど、どう関わっていくかみんなで検討できたらと思う。」といった意見が寄せられた。

## 岡山 第4回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:平成30年4月24日(火) 18:00~19:30  
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム  
参加者:5名

司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療品質管理基礎技術3(放射線の特性)」  
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療品質管理基礎技術4A(放射線発生器の特性)」  
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画しています。今回のセミナーではChapter3、4を中心に、X線管の構造、X線発生回路、電圧整流、X線物理、出力特性、X線治療の歴史、低エネルギーX線治療装置の応用などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

## 山口 第2回 山口大学がんプロCNS事例検討会

日 時:平成30年4月24日(火) 17:00~19:00  
場 所:山口大学医学部実習棟A2階 テュートリアル室  
参加者:10名



司会:山口大学大学院医学系研究科  
保健学専攻 教授 齊田 菜穂子 先生

「がん看護専門看護師が実践する  
コンサルテーション～事例を通して～」

講師:医療法人至誠会 なゆたの森病院  
がん看護専門看護師 成清 優子 先生

### 終了報告

この度、なゆたの森病院からがん看護専門看護師の成清優子先生をお招きし、第2回山口大学がんプロCNS事例検討会を開催した。検討会には、がん看護専門看護師を目指す看護師のほか大学院生や保健学科の学生など10名の参加があった。2名の参加者から看護実践報告書の発表があり、それぞれについて成清先生にご指導いただいた。発表後は活発な質疑応答があり、大変盛会であった。

## 岡山 第5回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:平成30年4月26日(木) 16:30~18:00  
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム  
参加者:5名

司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療品質管理基礎技術4B(放射線発生器の特性)」  
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画しています。今回のセミナーではChapter4を中心に、高エネルギーX線発生加速器の応用、放射性核種による放射線治療、粒子線治療の歴史と応用などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

## 岡山 第6回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:平成30年5月10日(木) 16:30~18:00  
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム  
参加者:5名

司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療品質管理基礎技術5A(電離相互作用)」  
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画しています。今回のセミナーではChapter5を中心に、放射線の物理特性、光子・中性子の相互作用などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

## 岡山 第7回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:平成30年5月11日(金) 18:00~19:30  
場 所:津山中央病院がん陽子線治療センター 治療計画室  
参加者:8名

「Intra-fraction setup errorにおける線量分布への影響」  
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

インテンシブコース及び出前講義として津山市内の関連病院や院内スタッフ等を対象に、放射線治療技術に関するセミナーを開催致しました。今回のセミナー企画は今年度に入って第2回目であり、Intra-fraction setup errorにおける線量分布への影響と題して、陽子線治療における体内臓器の呼吸性移動による影響とその対策などについて概説しました。少人数でしたが、熱心に質疑応答をして頂きました。



## 岡山 第8回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:平成30年5月15日(火) 18:00~19:30  
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム  
参加者:5名

司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療品質管理基礎技術5B(電離相互作用)」  
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画しています。今回のセミナーではChapter5を中心に、荷電粒子の相互作用などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

## 徳島文理 東四国医療セミナー

日 時:平成30年5月18日(金) 19:00~20:30  
場 所:高松シンポルタワー棟6F かがわ国際会議場  
参加者:150名

### 【一般講演】

座長:香川県病院薬剤師会 会長 芳地 一 先生

「チーム医療におけるspecialistとしての役割〜がん専門薬剤師海外派遣事業を経験して〜」  
香川大学医学部附属病院薬剤部 薬剤主任 田中 裕章 先生

### 【特別講演】

座長:徳島大学大学院 医歯薬学研究部 臨床薬理学分野 教授 石澤 啓介 先生

「がん薬物療法の夜明け」

香川大学医学部臨床腫瘍学 教授 辻 晃仁 先生

### 終了報告

田中氏は海外派遣事業(医療薬学会)でMemorial Sloan Kettering Cancer Center(ニューヨーク市)へ訪問し、ペバシズマブによるタンパク尿等の副作用管理システムが報告された。辻氏からは、抗体医薬品の登場によるがん薬物療法の新時代についてニボルマブを例に症例を報告された。

## 山口 第3回 山口大学がんプロCNS事例検討会

日 時:平成30年5月18日(金) 18:30~20:30  
場 所:山口大学医学部実習棟A2階 テュートリアル室  
参加者:8名

司会:山口大学大学院医学系研究科  
保健学専攻 教授 齊田 菜穂子 先生

「コンサルテーション活動における成果と課題の分析」

講師:山口県立総合医療センター  
がん看護専門看護師 山本 知美 先生

### 終了報告

この度、山口県立総合医療センターからがん看護専門看護師の山本知美先生をお招きし、第3回山口大学がんプロCNS事例検討会を開催した。検討会には院外からも参加があり、参加者は8名であった。がん看護専門看護師の資格取得を目指している参加者から看護実践報告書の発表があり、その書き方や内容について山本先生に助言・指導いただいた。発表後は活発な質疑応答があり、大変盛会であった。



## 岡山 第9回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日 時:平成30年5月24日(木) 16:30~18:00  
場 所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム  
参加者:5名

司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療品質管理基礎技術6A(線量計の特性)」  
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画しています。今回のセミナーではChapter6を中心に、放射線量の単位、電離箱の構造、電位計の構造などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

徳島

## 第31回 日本癌学会市民公開講座 「がんを見つける、防ぐ、治す！ゲノムから眺めたがん医療」

日時:平成30年5月27日(日) 13:30~16:30  
場所:徳島大学蔵本キャンパス内 長井記念ホール  
参加者:247名

司会:徳島大学先端酵素学研究所 ゲノム制御学分野  
教授 片桐 豊雅  
日本癌学会 広報委員長/がん研究会がん研究所  
副所長 中村 卓郎

開会挨拶:日本癌学会 理事長/国立がん研究センター  
理事長・総長 中金 斉

講演1:「がんゲノムって何？」  
大阪大学大学院医学系研究科 医学専攻  
ゲノム生物学講座・がんゲノム情報学  
教授 谷内田 真一

講演2:「進化する肺がんの治療～進むゲノム医療の現場から～」  
徳島大学大学院 医歯薬学研究部 呼吸器・膠原病内科学分野  
教授 西岡 安彦

講演3:「ゲノム研究が開く新しいがん医療への道」  
国立がん研究センター 先端医療開発センター  
トランスレーショナルインフォマティクス分野  
分野長 土原 一哉

講演4:「遺伝性のがん:ゲノムから見たがんにかかりやすい体質との付き合い方」  
愛知県がんセンター中央病院 リスク評価センター  
センター長 井本 逸勢

パネルディスカッション

閉会挨拶:日本癌学会 広報委員長/がん研究会がん研究所  
副所長 中村 卓郎

### 終了報告

省庁および徳島新聞等多くの団体からの後援をいただいた市民公開講座であったため、通常の講座よりもはるかに大きな広告効果があり、247名もの多くの市民にご参加いただけた。講座では最前線のがんゲノム医療について取り上げ、日本におけるがんゲノム医療研究のオピニオンリーダーをお招きして、市民の方々に有益で正確な情報提供ができたと思われる。今後も継続してこのような公開講座を開催したい。

参加者からは、「当日講演を聞いて生じた疑問を書面で提出して、それをパネルディスカッションにより答えていただく形式は初めてであったが、とても良かった。個々の講演時間はもっと長くしてほしい。」「西岡先生の現場からの講演はわかりやすく理解できた。井本先生の遺伝性のがんのお話にも興味を持てた。他二名の先生も一般市民に理解できるようわかりやすい講演でありがたかった。」などの感想が聞かれた。



岡山

## 第10回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:平成30年5月29日(火) 18:00~19:30  
場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム  
参加者:5名

司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療品質管理基礎技術6B(線量計の特性)」  
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画しています。今回のセミナーではChapter6を中心に、電離箱線量計を利用した電離放射線の計測法などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

岡山

## 第11回 岡山大学医学物理コース(インテンシブ)地域連携セミナー

日時:平成30年5月31日(木) 16:30~18:00  
場所:岡山大学大学院保健学研究科 総合教育研究棟8F リフレッシュルーム  
参加者:5名

司会:岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

「放射線治療品質管理基礎技術7(放射線の線質と管理)」  
岡山大学大学院保健学研究科 笈田 将皇

フリーディスカッション

### 終了報告

本セミナーは、インテンシブコースとして市内の関連病院や院内スタッフ・大学院生等を対象に、海外の教科書(Physics of Radiation Therapy)を用いて系統立てたセミナーを企画しています。今回のセミナーではChapter7を中心に、半価層と濾過、放射線線質の決定法、エネルギースペクトル測定などについて解説がなされました。大学院生が参加者の大部分を占めましたが、全員、熱心に英語を読み説く姿勢が見られました。

徳島

## 第46回 徳島大学薬学部卒後教育公開講座

日 時:平成30年6月3日(日) 14:00~17:00  
場 所:徳島大学長井記念ホール  
参加者:115名

## 講演 1

座長:徳島大学 久米 哲也

「医療現場から世界へ発信—がん薬物療法のエビデンス—」

神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部 副部長代行  
池末 裕明 先生

## 講演 2

座長:徳島大学 滝口 祥令

「抗微生物薬の最適投与法を目指した育薬研究」

慶應義塾大学薬学部 教授 松元 一明 先生

## 終了報告

神戸市立医療センター中央市民病院薬剤部副部長代行の池末裕明先生から、がん薬物療法を中心に、ご自身が臨床研究の研究成果がガイドライン策定のエビデンスとして臨床への貢献につながった例などをお話しいただいた。慶應義塾大学薬学部教授の松元一明先生からは、ご自身の研究から得られた最新のエビデンスに基づいて、抗微生物薬の使用法に関するガイドライン未収録のコツについてお話しいただいた。

参加者からは「講師の知識・経験量とも膨大で、楽しんで聞くことができた」「実用的な講演だった」「非常にわかりやすく面白く講演だった」「内容について実際に使えるもので、とても参考になった。プレゼンも素晴らしい」という意見をいただいた。



愛媛

## 第1回 愛媛大学がんプロフェッショナル養成インテンシブコース講習会

自己免疫疾患関連副作用(irAE)マネジメント勉強会  
テーマ:大腸炎

日 時:平成30年6月13日(水) 18:00~19:00  
場 所:愛媛大学医学部附属病院 地域医療支援センター1F 講義室  
参加者:41名

「前回の勉強会の振り返り(間質性肺疾患)」

愛媛大学医学部附属病院 腫瘍センター 朝井 洋晶 先生

総合司会:愛媛大学医学部附属病院 腫瘍センター 朝井 洋晶 先生

「炎症性腸疾患の診断と治療について」

愛媛大学医学部附属病院 地域消化器免疫医療学 竹下 英次 先生

## 終了報告

非小細胞肺癌、悪性黒色腫、腎細胞癌、古典的ホジキンリンパ腫、頭頸部癌など様々ながん腫で免疫チェックポイント阻害剤の有効性が示されたが、今までの殺細胞性抗がん剤では見られなかった自己免疫疾患様の有害事象が起こり得ます。今回は、免疫チェックポイント阻害剤による自己免疫疾患関連有害事象の一つである大腸炎について、自己免疫性腸炎疾患である、潰瘍性大腸炎、クローン病について診察、診断に必要な検査、治療法について、最後に免疫チェックポイント阻害剤投与中の大腸炎について他施設での経験例を踏まえ、当院の消化器内科専門医である竹下医師にご講演いただきました。

今回のセミナーは、全体にわたって活発な質疑応答がされ知識を深めることに十分役立ったと考えられます。今回も、下痢、腹痛、下血など本病態を疑う場合には感染症の鑑別と同時にステロイドを含む治療を考慮すること、また、消化管内視鏡検査では消化管穿孔のリスクもあることから、CT評価が望ましいこと等を情報共有しました。今後他の有害事象についても継続的な勉強会を開催する予定です。



山口

## 第2回 がん治療スキルアップセミナー

## 第15回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会

日 時:平成30年6月20日(水) 17:30~18:30  
場 所:山口大学医学部附属病院 新中央診療棟1階 多目的室1  
参加者:31名

## 事例検討

「地域の緩和ケア病棟と在宅医の連携により希望する自宅での看取りが実現した舌がん事例」

山口大学医学部附属病院 歯科口腔外科 堀永 大樹 先生  
山口大学医学部附属病院 看護部 今中 麻友美 先生  
下関市立市民病院 緩和ケア内科 牧野 一郎 先生

## 終了報告

この度、第15回宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が開催された。この事例検討会は、切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的としており、院内外の医師、看護師、MSW、臨床心理士など31名の参加があった。当院の腫瘍センター吉野茂文副センター長より開会の挨拶があり、当院の緩和ケアセンター山縣裕史医師を司会として、各施設より事例提示があった後、グループ形式で討議を行った。グループ討議では、様々な視点から活発に意見が出され、大変有意義な検討会となった。

参加者の方からは、「事例の振り返りにより退院後の患者さんの様子や、どのように対応されていたかが分かり、とてもよい学びとなった。今後の看護に活かしていきたいと思います。」や「口腔外科では受け入れ先の選択に苦慮することが多いが、診療科の枠を超えて調整できる架け橋ができた気がします。今後のよりよい連携ができたと思います。」などの意見が寄せられた。



山口

## 第4回 山口大学がんプロCNS事例検討会

日 時:平成30年6月29日(金) 17:00~19:00  
場 所:山口大学医学部実習棟A2階 テュートリアル室  
参加者:6名

司会:山口大学大学院医学系研究科

保健学専攻 教授 齊田 菜穂子 先生

「専門看護師が経験する事例とその視点」

講師:久留米大学病院 医療連携センター  
がん看護専門看護師 原 美穂 先生

## 終了報告

この度、久留米大学病院からがん看護専門看護師の原美穂先生をお招きし、第4回山口大学がんプロCNS事例検討会を開催した。院内・学内から6名の参加があった。事例検討会では、がん看護専門看護師の資格取得を目指している参加者から看護実践報告書の提示があり、その後、書き方や内容について原先生に助言・指導いただいた。参加者と講師の間では活発な質疑応答があり、大変盛会であった。



# 参加大学

## Consortium Member



**広島大学**  
Hiroshima University

がん専門医養成コース  
がん専門薬剤師養成コース  
がん看護高度実践看護師養成コース  
医学物理士養成コース  
● 離地区運営支援部学生支援グループ  
TEL:082-257-1538



**川崎医科大学**  
Kawasaki Medical School

がん専門医療人養成コース  
● 事務部教務課  
TEL:086-464-1012



**岡山大学**  
Okayama University

がん専門医養成コース  
● 医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ大学院担当  
TEL:086-235-7986

がん専門職(がん専門:指導薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師)養成コース  
● 医歯薬学総合研究科等薬学系事務室教務学生担当  
TEL:086-251-7923

高度実践看護師(がん看護専門看護師)コース・医学物理コース  
● 医歯薬学総合研究科等学務課教務グループ保健学研究科担当  
TEL:086-235-7984



**山口大学**  
Yamaguchi University

外科系腫瘍専門医コース  
内科系腫瘍専門医コース  
放射線腫瘍専門医コース  
がん看護専門看護師養成コース  
● 医学部学務課大学院教務係がんプロ事務室  
TEL:0836-22-2055



**香川大学**  
Kagawa University

がんプロフェッショナル養成コース  
● 医学部学務課大学院入学試験係  
TEL:087-891-2075



**松山大学**  
Matsuyama University

がん専門薬剤師養成コース  
● 薬学部事務室  
TEL:089-926-7193



**徳島文理大学**  
Tokushima Bunri University

臨床腫瘍薬剤師コース  
● 香川キャンパス教育・研究支援グループ(がんプロ担当)  
TEL:087-899-7100



**愛媛大学**  
Ehime University

臨床腫瘍学教育課程がん専門医養成コース  
● 医学部学務課大学院チーム  
TEL:089-960-5868



**徳島大学**  
Tokushima University

がん薬物療法専門医養成コース・臨床腫瘍放射線医学コース  
臨床腫瘍外科学コース  
臨床腫瘍栄養学コース(博士前期課程・博士後期課程)  
● 蔵本事務部学務課第一教務係  
TEL:088-633-9649

臨床腫瘍薬剤師コース  
● 蔵本事務部薬学部事務室学務係  
TEL:088-633-7247

高度実践がん看護学コース・医学物理学コース  
● 蔵本事務部学務課第二教務係  
TEL:088-633-9009



**高知県立大学**  
University of Kochi

APNコース  
● 教務支援部教育研究戦略課  
TEL:088-847-8815



**高知大学**  
Kochi University

がん専門医養成コース  
がん専門薬剤師コース  
● 医学部・病院事務部学生課大学院係  
TEL:088-880-2799



### 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム Vol.53

- 編集兼発行者  
中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム事務局  
TEL 086-235-7023 info@chushi.ganpro.jp
- 印刷所  
有限会社 ファーストプラン